

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）  
活動記録集

2021

# 崇仁すくすくセンター実行委員会からのご挨拶

「崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）」2021年度活動記録集をお手にしていただきありがとうございます。私たちは2021年6月に「崇仁すくすくセンター実行委員会」を設立し、たくさんの方々に支えていただきながら、崇仁地域での本活動について、皆でじっくりと議論し、時に立ち止まって振り返り、丁寧にプロジェクトを進めようと努めています。

2023年、京都市立芸術大学(以下、京都芸大)及び京都市立銅駝美術工芸高等学校(移転後、校名を京都市立美術工芸高等学校に変更予定。以下、銅駝美工)の崇仁地域への移転が予定されており、2020年度より本格的な新築移転工事が始まりました。そんな中、崇仁すくすくセンターは、2020年度 HAPS 主催の京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環として、山本麻紀子(アーティスト / 崇仁すくすくセンター実行委員会・代表)がスタートさせたプロジェクトです。移転など新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共にあった元崇仁小学校、元崇仁市営住宅、元崇仁保育所などで命を育んできた樹木の挿し木を媒介とし、多くの方々とともに見守ることで、土地の記憶や物語、また人の繋がりを継承していくことを目指しています。いずれすべての挿し木の地植えが完了するであろう2030年までを目途に、時間をかけて様々な方々と関わりながら、挿し木の成長とともに完成する作品制作も行います。挿し木が成長し、崇仁地域やご縁のある場所の地面に戻り命を育てていくその日、さ

らにその後ずっと先の未来に向けて、日々重ねていくすべての過程を通して、崇仁という場について、また人と樹木の間わりについて、あらゆるものの命について考え、向き合える機会を創出できるように力を注いでいきたいと思っています。

今後、地域にお住まいの方やお仕事をされている方、共感してくださる方に実行委員会に参加いただき、プロジェクトをよりよくする方法と一緒に考え、進めていただけると嬉しいです。皆さんに参加をお願いするタイミングが来たときには、今後開設するホームページなどでお知らせしますので、どうぞ協力をお願いいたします。来年度以降も、挿し木鑑賞会、トーク、活動報告展などの開催をさせていただくかと思えます。その際には、ぜひアドバイスやご意見をくださいませう、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

最後に、2021年度の活動に多大なるご支援、ご協力をいただきました皆さま、本当にありがとうございました。年度末に崇仁地域にて活動報告展を開催することができたのも皆さまのおかげです。アンケートでご感想をいただきましたご来場者からの温かいお言葉はとても大きな励みになります。本当にありがとうございました。

2022年3月

崇仁すくすくセンター実行委員会一同

# 崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

## 2021年度の活動概要

2020年4～8月の間、建物が解体される直前の京都芸大及び銅駝美工移転予定地の敷地内で生きていた樹木の枝を採集し、苗木ポットに挿して日々の管理を行い、挿し穂から根が伸びるのを待ちました。樹木名・採集場所・採集年月日を記録し、2020年8月末の時点で約50種の樹種、総数776本の挿し木を試みました。水やり、温度や湿度など試行錯誤を繰り返して日々の管理を続けたものの、技術的に大変難しく、根が出なかったり、葉が落ちたり、切り口が黒く変色して枯れてしまったりと、2020年12月には、樹種18種、85本となってしまいました。樹木医の方から、挿し木の冬越しに関するアドバイスをいただくとともに、樹種によっては地植えができるまでに約10年かかるものもあるということを知り、「崇仁すくすくセンター」は、順調に育つすべての挿し木の地植えが完了するであろう2030年までを想定し、長期プロジェクトとして展開していくことを決めました。

プロジェクトを2030年まで続ける決心を固め、新たな体制として、2021年6月に「崇仁すくすくセンター実行委員会」を設立しました。地域に根付いたプロジェクトを具体化していくためのチーム体制を築きながら、2021年度は主に崇仁デイ

サービスうらおいのご利用者さんとの活動を重ねてきました。並行して、山本は滋賀県のアトリエにて、2022年度から毎年1回(春または秋を予定)、崇仁地域の屋外で開催を計画している「挿し木鑑賞会」のため、主に「植物染め」と「土」に関するリサーチを行っています。「挿し木鑑賞会」では、挿し木を囲んで、お話の聞きとり、専門家の方を交えてのトーク、すべての挿し木の地植えが完了するであろう2030年に完成する作品制作ワークショップなどを行う予定です。リサーチの成果は、その際の場の設えや、ワークショップで取り組む作品制作での素材や技法に活かされます。この染めと土に関する探索は、挿し木の地植えが完了するまで継続して行い、随時、「崇仁すくすくセンター」そのものの方向性を検討するための指針にもなります。

2022年2月には、「崇仁すくすくセンター」がスタートした2020年度と、新たな体制として「崇仁すくすくセンター実行委員会」を立ち上げて行ってきた2021年度の活動を紹介する報告展を開催いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、報告展は開催しましたが、HAPSと共催で予定しておりました関連イベントのトークは、2022年度に延期といたしました。

## 目次

崇仁すくすくセンター実行委員会からのご挨拶	P2
崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2021年度の活動概要	P3
崇仁デイサービスうらおいの皆さんとの活動	P4
「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなし	P7
崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2020～2021活動報告展	P10

山本麻紀子による個人リサーチ	P12
山本麻紀子による挿し木の観察記録	P13
活動報告展・アンケート集計結果	P18
崇仁すくすくセンター実行委員会メンバー紹介	P22

# 崇仁デイサービスうるおいの皆さんとの活動



2021年7月13日(火)

## 「崇仁すくすくセンターのご紹介と、崇仁の植物でしおりづくり」

崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんに、崇仁すくすくセンターのこれまでの活動をまとめた写真や挿し木の実物をお見せして、プロジェクトのご紹介をしました。また、デイサービスの近くで生きている植物の花、茎、根っこから色を出し、その色で紙を染め、押し花をして、しおりを作りました。  
京都市「まちじゅうアーティスト事業」対象事業  
協力：一般社団法人 HAPS

2021年9月28日(火)

## 「挿し木を囲む会」(挿し木を囲んでのおはなし会)

挿し木を囲んで、挿し木に触れていただいたり、自生していた頃の樹木やその環境などの写真を見ていただいたりしながらたくさんのお話をしました。また、この日からデイサービスうるおいフロア内で挿し木の見守りを始めていただき、水やりや声掛けの際には、見守り日誌として絵やメッセージを記録していただいています。

2021年10月22日(金)・26日(火)

## 「色和紙づくりワークショップ」

2021年10月の時点で、順調に成長している挿し木は、樹種13種、60本になりました。その13種類の挿し木たちが大きく育った時の姿を描くちぎり絵制作の第1工程として、和紙に水彩絵の具で色をつけ色和紙をつくりました。たくさん色だけでなく、ご利用者さん1人1人の刷毛の使い方によって様々な濃淡、にじみ、模様のある色和紙ができました。

2021年11月6日(土)～14日(日)

## 「『崇仁文化祭』で色和紙を展示」

崇仁地域で活動されている様々な団体の取り組みなどを毎年ご紹介されている崇仁文化祭にて、10月にご利用者さんがつくられた色和紙を発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、デイサービスうるおいフロア内での活

動を外部の方にご覧いただく機会を持っていなかったのですが、この文化祭で活動紹介や制作物を発表することができ、地域の方に向けての情報発信のきっかけとなりました。

2021年11月23日(火・祝)

## 「挿し木を囲んで絵やメッセージを描く会」

9月28日よりデイサービスうるおいフロア内にてご利用者さんと職員さんに見守りをさせていただいている挿し木(アジサイ2つ、ゲッケイジュ1つの合計3本)を囲みながら、それらもともと大きな木の姿で生きていた場所にまつわる様々なお話をしました。また、ご利用者さんが選ばれた挿し木の葉っぱの輪郭を山本が紙に描き、その輪郭の内側をご利用者さんが色鉛筆やクレヨンを使って丁寧に色塗りをしてくださいました。皆さんが話してくださったエピソードやメッセージ、絵などは挿し木の成長とともに記録を重ねて大切に保管していきます。(※詳細は7ページをご覧ください)

2021年12月～

## 「挿し木のちぎり絵」制作開始

2021年10月時点で順調に育っている13種の挿し木が大きく育った時の姿をイメージした下絵を山本が描き、その上にちぎり絵を重ねる制作がはじまりました。ここで使用している和紙は、10月にご利用者さんが様々な色の水彩絵の具を使って白い和紙に色を塗り、つくってくださった色和紙です。山本はデイサービスうるおいの近くで生きている植物から色をもらって部分的(マスキングテープに×印がされている部分)に染め、樹木それぞれの未来の姿を描いています。すべてのちぎり絵ができあがり、13枚のちぎり絵を大きな布に縫い付けて、2022年度に完成させる予定です。

○現在順調に育っている13種の樹種(2022年2月時点)

<元崇仁市営住宅より> アジサイ クチナシ バラ

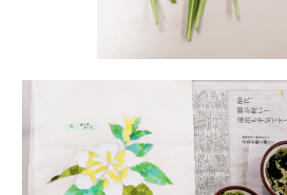
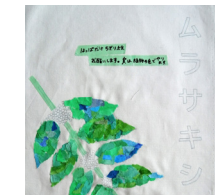
<元崇仁小学校より> アジサイ ムクゲ フヨウ キンモクセイ

ゲッケイジュ ナツミカン シロバナヤエウツギ

ヤエクチナシ(→のちに「ヒメクチナシ」と判明)

<元崇仁保育所より> ムラサキシキブ マサキ

モクレン(→のちに「シモクレン」と判明)





2021年9月～

### 「挿し木の見守り日誌」

2021年9月28日(火)の「挿し木を囲む会」(挿し木を囲んでのおはなし会)から、デイサービスうるおいの入り口周辺で挿し木の見守りを始めていただいています。元崇仁市営住宅よりアジサイ、元崇仁小学校よりアジサイ・ゲッケイジュ・キンモクセイ、元崇仁保育所よりバラの5つを、温度・湿度計とともにお預けしました。それまでは、滋賀県の山間部にある山本のアトリエで管理していたので、環境の変化が心配でしたが、日々様子を見ていただきながら、職員さんとやりとりしていました。10月12日(火)にバラとキンモクセイの元気がないと連絡があり、その日に引き取りに行きました。デイサービスうるおいのフロア内は空調がきいている環境のため、山本のアトリエの湿度と比べると30%ほど湿度が低いことが分かり、急遽加湿器を設置し、アジサイ2つ(元崇仁市営住宅より1つ、元崇仁小学校より1つ)とゲッケイジュ1つ(元崇仁小学校より)の合計3つの挿し木は、現在もデイサービスうるおいのフロア内で見守りを続けていただいています。水やりや声掛けの際に、気づいたことや感じたことを絵や言葉で「見守り日誌」として残していただいております、今後も継続していきます。

2021年11月～

### 「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなし

デイサービスうるおいのご利用者さんに、挿し木に触れていただいたり、ちぎり絵制作をしていただいたり、挿し木が大きな樹木の姿で生きていた頃の写真を見ていただいたりしながら、対話を重ねています。挿し木に触れた瞬間に昔の思い出が一気にあふれ流れるようにお話をしてくださった方や、写真を見ながらじわじわとたくさんのお話をしてくださった方など、対話の時間は時空を超えるような感覚になります。また時には挿し木の様子を観察しながら絵に描いていただいたりもしています。この記録は今後も続けていき、いずれ地植えされる挿し木とともに大切に未来に残していきたいと思っています。



2021年 9月 28日  
今日お預けされた挿し木たち、  
よろしくね。  
大森



11/3(水)  
あかあか  
大森



日 時：2021年11月23日(火・祝)【挿し木を囲んで絵やメッセージを描く会】

場 所：崇仁デイサービスうるおい

お名前：H Wさん 年齢 / 年代：80代

エピソード：

【崇仁小学校の思い出】

息子が崇仁小に通っていた。袋をもって通っていたのが印象的。

(記録：デイサービスうるおい職員・香川美希)

日 時：2021年11月23日 (火・祝) 【挿し木を囲んで絵やメッセージを描く会】

場 所：崇仁デイサービスうるおい

お名前：匿名 年齢 / 年代：80代

エピソード：

【崇仁小学校の思い出】

先生に怒られて、廊下に立たされたり、同級生とはよく遊んだ。百人一首でたたかれたこともあった。横着して、友人と掃除の時間に歌をうたってサボっていたら良く先生に怒られた。遅刻して学校に入れなくて帰ると、近所のおばちゃんが、一緒に先生に謝ってくれて、教室に入れてくれた。昔はカネの下敷きを使っていて、それでよく遊んだり、理科室で怖い話をしていた。おおさわ先生が一番印象的。厳しかったあ。小学校、中学校を卒業してからも生徒と先生が中心になって同窓会をしたり旅行に行ったりして楽しかった。先生の旦那さんや生徒の家族もみんなで旅行した。同級生も何人か今も会うことがある。

(記録：デイサービスうるおい職員・山本奈央)

10/9(土) 16:55 水やりしました!!  
キンモクセイの葉が2枚  
とれていました....  
今後の心配....  
森水 秋斗

2021.10.12  
ポ-ポ-  
→3-3  
アジサイの葉が2枚入袋  
リフレックス バラ  
大森

11/3(水)  
あかあか  
大森

2021.10.14  
美顔器  
加湿器  
大森

3鉢は緑色。  
大森

もう枯れてしまったか  
思いま、新芽がでる!  
大森

ゲッケイジュの  
3つの葉が  
カサカサ...  
大森

日時：2021年11月23日(火・祝) [挿し木を囲んで絵やメッセージを描く会]

場所：崇仁デイサービスうらおい

お名前：Yさん 年齢/年代：80代

エピソード：

【暮らしについて】

中学2年で学校には行かず、東本願寺で土産物を売っていた。草履を売っているおじさんに東本願寺の世話をしてもらった。

(記録：デイサービスうらおい職員・香川美希)

日時：2021年11月23日(火・祝) [挿し木を囲んで絵やメッセージを描く会]

場所：崇仁デイサービスうらおい

お名前：K Yさん 年齢/年代：80代

エピソード：

【暮らしについて】

運動場の裏に子供の頃、よく隠れていました。壁を乗り越えて、のぞくと豚が残飯を食べていて、それをみて食事を食べるのが嫌になりました。家が共同炊事場で鳥を飼っていて、大きくなったら鳥の首を絞めて吊るして、毛をむしっていたので、それを見ていたら鶏肉は苦手になりました。トイレも共同だったので高瀬川でよく用を足していました。

(記録：京都市下京・東部地域包括支援センター・センター長 宮崎彰子)

日時：2022年2月8日(火) [フロア内にてお話]

場所：崇仁デイサービスうらおい

お名前：藪下美智子さん、勝本秋子さん 年齢/年代：80代

エピソード：

【崇仁小学校の思い出】

<運動場の写真を見て>

この時よりうちの時の運動場はもっと狭かったように思う。人数の割には狭かった。

走りは速かった。黒いブルマを履いて半袖でマラソンの練習をしていた。先生が熱血やったし、特別なトレーニングをしたわけではないけれど、走りが強かった。3年生～6年生は、崇仁小学校→山科(坂を登って)→泉涌寺から出てくるコースで練習した。

<正門の写真を見て>

正門のところに二宮金次郎さんがいた。また逢いたい。今はどうなっているのかな？

今正門に入ったら、なだらかな坂になっていて降りていく感じ。左右には花が植えてあった。

<正門のところにある夏みかんの写真を見て>

夏みかんなあ、よう先生に内緒で食べて怒られて立たされてたわ。大きい杉の木あったやろ？あれどうなった？そうそう思い出してきた。正門入ってずっとまっすぐ進んで線路のヘリのところにケシの木がたくさん並んでた。ケシの花が大好きやしよく覚えてる。

<崇仁小学校敷地内の高瀬川が流れている辺りの写真を見て>

この石(飛び石)は自治連の人が作ってくれたんやで。今もあるか？今はないんちゃうか？ここな、蛍もよく出てたんやで、綺麗やったんやで。

<西門近くの金木犀の写真を見て>

ああーあったなあ。この体育館は残ってるんやんな？金木犀な、私は苦手やねん。苦手なイメージがあるねん。給食の仕事をしてた帰り(崇仁地域外)、バス停のすぐそばに金木犀があって、バスを待つ時いつもいつもその匂いがして結構きつい匂いがして嫌やった。

【挿し木が大きくなった時に崇仁に居る方へ】

私らそんな生きてへん。来年でも分かんのに。でも、2023年に新しく銅駝美術高校と京都芸大がオープンすると聞いて、二宮金次郎さんは見に行きたいなあ。大学の敷地内にも今育てている木が地植えされてるんやったらそれも見に行きたい。挿し木の26年後、100年後の姿も見てみたいで。本心は。メッセージは、「大事にしてや。お願いやで。」明日も明後日もまた別の人が来るから話また聞きに来たらいいよ。

(記録：山本麻紀子)

日時：2022年2月8日(火) [フロア内にてお話]

場所：崇仁デイサービスうらおい

お名前：TKさん 年齢/年代：70代

エピソード：

【崇仁小学校の思い出】

<校門の写真を見て>

私の行っていた頃の校門はもう少し大きかった気がする。校門のところで、毎日先生が交代でお迎えしてくれた。近所の友達と集まって一緒に登校していた。そこにいつも男の人(先生？地域の人？)覚えてないが同行してくれた。崇仁小学校の先生は強かった!!

<木造の校舎を見て>

男の子が何気なしに女の子の肩をぼんっとたたいたら、先生がすぐに来て「そんなことしたらあかん!」と怒ってくれた。和田先生は覚えてる。厳しくて優しくかった。

【10年後、100年後に崇仁に居る方へのメッセージ】

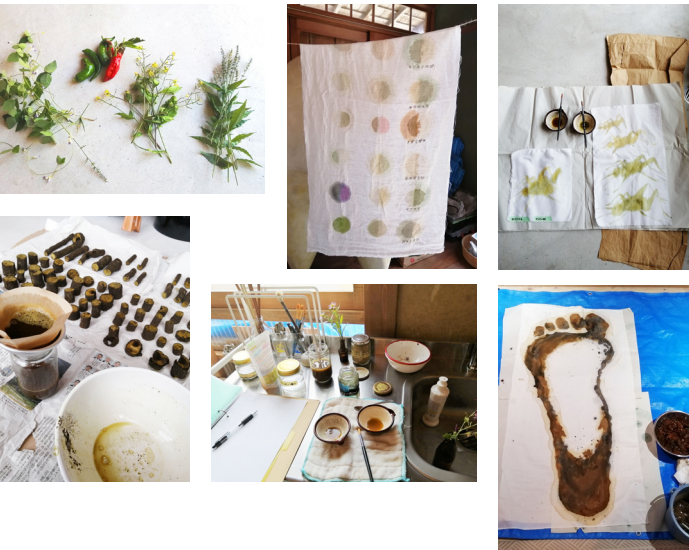
嬉しいなあ。こうして挿し木をやってくれて。本当にね、これが長くしっかり育つように大事に見守って大切にしてください。ずーっと枝を伸ばさせて下さい。そしてまたももとの姿くらいに大きな姿にさせてあげて下さい。大きくなってー大きくなってーまた同じ大きさになってずっと生きていってね。また伸びますから大事にしてやってほしいです。お願いします。私は植木が好きやから。そうそう、私よりもっと先輩(年上の人)の男の人にもいろんな話を聞いて後世の人へ伝えて行ってください。お願いします。

(記録：山本麻紀子)



# 山本麻紀子による個人リサーチ

崇仁すくすくセンター実行委員会・代表の山本麻紀子が個人的に行っているリサーチの一部をご紹介します。これらは、2022年度から毎年1回(春または秋を予定)、崇仁地域の屋外で開催を計画している「挿し木鑑賞会」の際の、場の設えや、ワークショップで行う作品制作における素材や技法などを探る実践です。「挿し木鑑賞会」では、挿し木を



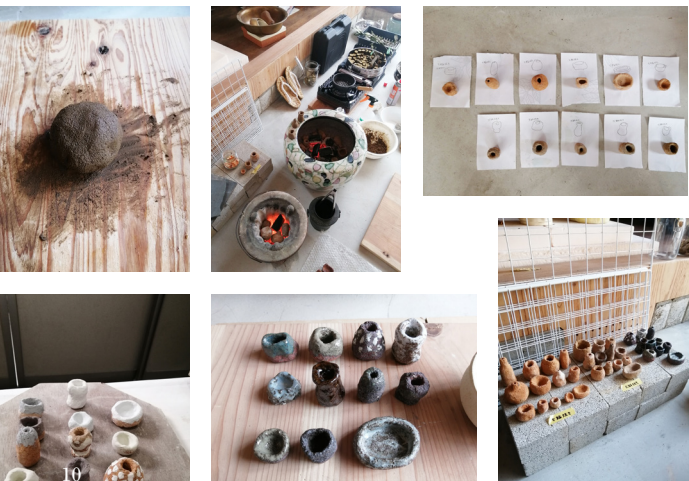
んで、お話の聞き取り、専門家の方を交えてのトーク、すべての挿し木の地植えが完了するであろう2030年に完成する作品制作ワークショップなどを行う予定です。主に「植物染め」と「土」の2つをテーマに、今後も手を動かしながら探索を進めていきます。

## 染めシリーズ：

植物を擦って出る液体を染液とし、異なる媒染液をいれた2種の色がどのようににじみあっていくか、植物と媒染液の組み合わせで色褪せしにくいものはあるのか、日光などにより色が消失してしまう植物に何か共通点はあるのか、染める布の素材(繊維・厚み・製造工程など)によって染まり具合がどのように違ってくるのかなど、気になったことを実証してみようとする様々な実験をしています。染液を何回も重ね塗りしたら何か特性があるか、また染液は使わず自作の媒染液だけで絵を描いてみたらどうかなど、自分自身の素朴な疑問に向き合っています。アトリエの庭で生きている植物から色をもらったり、アトリエで出会う生き物をモチーフにしたりしています。

## 焼き物シリーズ：

うまく根付かなかった挿し木ポットに入れていた赤玉土を水に浸し、それをこしたもので形をつかった、火鉢焼き・七輪焼き・陶芸窯焼き(釉薬あり)の焼き物のシリーズです。これらの小さな器は、順調に育っている挿し木たちが成長とともに剪定される枝や、季節毎に咲く花を飾る器となるようにつくっています。今後、挿し木の成長とともに使う土の種類は変わっていきます。それに伴い、形成される形状や焼き上がりが変わってくるかと思っています。樹種によって異なると思いますが1~2年に1回は鉢の植え替えをする予定ですので、挿し木が無事に地植えされるまでの間、この器づくりは続けていくつもりです。いずれ植木鉢をつくれるようになりたいなと思っています。



# 山本麻紀子による挿し木の観察記録

2021年4月~2022年2月 滋賀のアトリエにて

**2021年4月** 気温10~16℃、湿度60~70%(平均)  
日当たりもよく風通しもいいアトリエの土間に、巨人の歯。そのそばに挿し木を移動させる。挿し木になって1回目の冬を無事に越してくれた挿し木たち。山の中の冬寒かったやろ?がんばってくれてほんまにありがとう。モクレンの葉っぱ、柔らかくつやつやピンツ。ナツミカンに真珠のようなつぼみ。沈黙が続いたムラサキシキブにはみずみずしい緑の新芽。春が来た。毎日の気温と湿度を見ながら樹種ごとに水やりの量を調整する。崇仁小学校のサクラ。3月20日に花を咲かせたサクラ。その後、元気がなくなった。アトリエの庭で一番気持ちのいい場所に置いて、念を送る。「生きてますか?」「生きてる。」はい。そう。生きてる。挿し木ポットを触って。祈る。信じる。



**2021年5月** 気温12~18℃、湿度65~80%(平均)  
やっぱりサクラ、どんどん元気が無くなっていく。サクラにとって、挿し木になっても毎年お花を咲かせてあげるのが一番いいと思い込んでいた。お花を咲かせることで、その後に新芽を成長させるためのエネルギーも使い果たしてしまった。ちょっと考えたら分かることやのに…なんてことをしてしまったんや…落ち込む日々。若菜さんに相談に乗ってもらいながら、一回り大きい鉢に植え替えをした日のことを回想する。弱っている時の植え替えはリスクが高いそうだが、土の表面にカビが生えていたのでいてもたってもいられなくなって植え替えをした。初めて見た根っこ。1年でこんなにたくさん根っこが伸びていたなんてほんとに信じられなかった。今はどうなってるんやろう。ナツミカン。真珠のようなつぼみが2つ落ちていた。いや、わざと落としたりんやんな。残りのつぼみも取ったほうがいいのかというサインですね?心苦しかったけど残り2つ、摘み取った。



**2021年6月** 気温18~22℃、湿度67~90%(平均)  
毎日挿し木の様子を見ていると、だんだん樹種ごとの特徴が分かってくる。フヨウはちょっと水が足りないだけで葉っぱがしなっとなって、水をあげたらすぐ元気になる。すぐ反応する。水が好きなんやな。アジサイも同じく、でもフヨウより少し反応はおっとり気味な感じ。キンモクセイは新しい芽がほんのちょっと出て、そこからずっと止まっている(ように見えて実は見えないところで成長しているにちがいない)。ゲッケイジュ、マ





サキも成長がゆっくり。樹種によって成長のペースが違うなんて、挿し木を始めた頃には気づけなかった。2020年4月～11月の間、うまく根付かなかった挿し穂をHAPS HOUSEの庭に埋めていた。12月にふと思立ってできるだけ掘り起こし保管していた。それを蒸して煮だして染液をつくる。おお、何とも言えない匂い。なんていうか昆布のような深い香り。海藻類のような。海の匂いがアトリエに広がる。顔いっぱい蒸気を当てて吸い込んだ。蒸す煮だすを5回繰り返した。黄色を秘めた茶色いココアみたいな染液ができた。蒸して煮だし終えた枝も乾かして保管する。枝1つ1つ本当に素晴らしい形状。美しい。いつか必ず何かになる。絶対に。絶対にその時が来る。私には分かる。分かるっていうか、知ってる。

**2021年7月** 気温22～25℃、湿度85～96% (平均)  
 バラ、モクレン、アジサイ、ムラサキシキブの植え替え。それぞれ赤玉土と腐葉土の混合の割合を変える。植え替えの時、毎回挿し木の根っこを見るのはドキドキする。挿し穂を赤玉土に挿したあの時。見えない根っこが生えてくることを心の底からただただ願って挿した。毎日の水やりや管理をする時もひたすらそれを願いつづけた。どういう状態になれば根っこが伸びてくるのか。ずっと土の中のことを考えてた、あの頃。挿し木が成長したように、なんだか私も成長したような気持ちになる。うん、できひんかったことできるようになった。できひんと思ってたことできるようになった。どんなことがあっても、みんなが必ず地面に戻る日まで守る。それがあから、私、強くなった。樹種によって、成長のペースが違うのと同様、根っこの形状や太さ、伸び方が違うことにもはっとさせられる。みんな違うことを目の当たりにすると1つ1つがより大切に感じる。

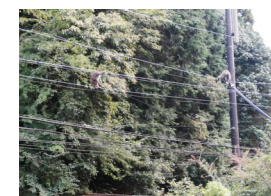
**2021年8月** 気温24～27℃、湿度85～98% (平均)  
 アトリエの屋根からどすどす音がすると思ったら、猿のファミリー。土間の引き戸を開けばなしにしていたので、挿し木が食べられる!と思って急いで閉めに。どんどん数が増えて全部で10匹くらいに。やっぱり挿し木が大きくなるまでは屋内での管理にしておいたほうがいいな。鹿もくるし。雨降りが続き集落内の川が氾濫し、家の前の道が濁流と化した日があった。ぎりぎり水は入ってこなかった。唯一の道路が川になったので移動できない。庭に流れる川は水位がかなりあがって裏勝手の近くまで水が迫っていた。とにかく最優先は挿し木たち。すべて2階に移動。自然に近い環境で暮らすとはこういうことかと身を引き締める。キンモクセイ、フヨウ、シロバナヤエ

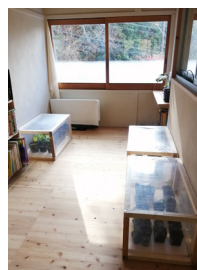


ウツギ、ムクゲの植え替えをする。週に3～4日は崇仁に。工事は着々と進む。崇仁小学校があった場所。伊東茂光先生が植えたイチヨウの木。伊東先生、かつてこの場所で根っこを伸ばしていた木は、ここにはいなくなりましたが、別の場所で生きてます。必ずまた同じ地面に戻ってきます。待っていてください。またあの時の姿のように大きくなる。

**2021年9月** 気温21～24℃、湿度88～95% (平均)  
 猿がまた来た。電線をあんな風につたっていくか!のびのび生きていいいな。人間のこんなか全く気にしてへんやん。アトリエの庭にゲンノショウコが生きていることを発見。早速お茶にするため日陰で乾燥させる。かわいいピンクのお花。この色は、崇仁と東九条でよく出会ったアカバナユウゲショウの色に似ている。ゲッケイジュの植え替えをする。根っこもゆっくり成長するのか、太めの根っこで本数も1本とかだった。メリケンガヤツリ。庭に1つだけ見つけた。これに似たの、崇仁保育所で見つけたな。何やったかな。名前がずっと分からなくて困ってたやつ。ヒナガヤツリ! そう。見た目のインパクトすごかった。崇仁保育所にたくさん生きていた。その仲間がアトリエの庭にも生きていたとは! 9月28日にデイサービスうらおいで「挿し木を囲む会」をするので、利用者さんとご対面する5つの挿し木の準備をする。そのままデイサービスフロア内にて挿し木を見守ってもらう。環境が変わってしまうのでダメージがないか心配しつつも、挿し木たちと利用者さん間でどんなことが起こるのかとても楽しみ。

**2021年10月** 気温10～20℃、湿度75～85% (平均)  
 土間の雨戸を開けると挿し木たちに光が当たる。窓からの光は季節によって角度が違う。光が当たってその光を反射する葉っぱ。透過する葉っぱ。輝いてる。きれいな。ほんとにきれい。マサキの植え替えをする。なかなか成長の様子が見えないけど確かに生きてるマサキ。根っこは思っていた以上に主根が長かった。アジサイの葉っぱに細かい斑点のようなものが。もしかしてハダニ? 重曹スプレーを作って散布。まだひどくないからきっと大丈夫。10月後半になるとだいぶ涼しくなってきた。そろそろ10℃を下回るかも。樹木医さんからは、気温が10度以下になったらちょっと気をつけるようにと言われている。ここのところ湿度は安定しているので嬉しい。そのせいか、挿し木たちもしっとりと気分よさそう。いい感じ。まだ湿度が70%を切っていないので、加湿器は設置していない。





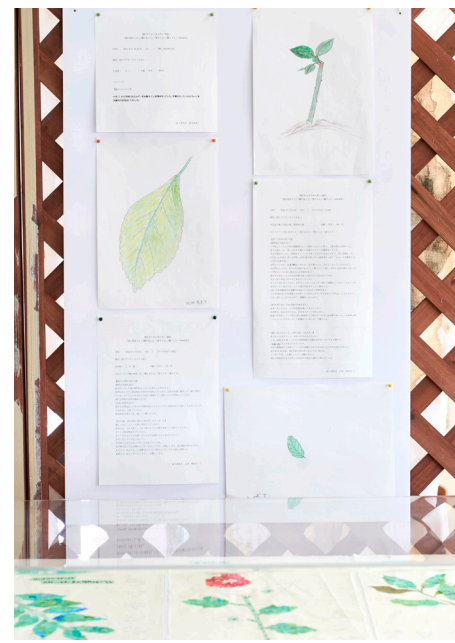
**2021年11月** 気温6～11℃、湿度73～79% (平均)  
 デイサービスうらおいから引き取ってきたバラは、葉っぱが全部落ちてしまった。でも何とか持ち返してきているように見える。日当たりのいいところに置いて、水やりを極力抑えてとにかく毎日気を付けて様子を見ている。キンモクセイは黄緑だったところが茶色になってしまった。やはり湿度が急激に変わったのと、適切な水やりの量を守る必要がある。デイサービスのフロアは空調管理がされているのでだいたい50%の湿度だった。フロア内で見守りをスタートして2日目に加湿器を設置したので、それ以降はだいたい70%くらいはあるはず。アトリエで管理しているアジサイは新芽が出てきてる。ナツミカンは2本枯れてしまった。もう11月やし、そろそろ今年の冬越しの準備をしないと。昨年より少し大きめの簡易ビニールハウスを3つ作る。アトリエの庭。畑にするゾーンと、挿し木のためのビニールハウスを設置するゾーンをおおまかに決める。来年春にはビニールハウスを設置する。そのために庭の開墾をしないと！崇仁市営住宅と崇仁第三浴場があった場所。大きな建物が建ってきて、そのスピードには本当に驚く。あれは、油画とか日本画が入る校舎かな？ほんまに新品ピカピカの校舎になるんやな。

**2021年12月** 気温3～9℃、湿度70～80% (平均)  
 1日で湿度が10%低くなることもある。湿度ってまいちよく分からん。デイサービスうらおいから帰ってきたバラ。新しい葉っぱが出てる!!!よかったー!ありがとう!がんばってくれてほんまにありがとう!キンモクセイははまだ音沙汰無し。庭にビニールハウスを設置する場所には笹がうっそうと茂っている。笹の地下茎はすごい!どこまでも深いところまでそして横へ伸びる。地上に出ている部分を刈りとって、あとは人力で開墾。1日1時間続けていく。掘ったら笹の地下茎と石がゴロゴロ出てくる。ぼっとな便所の穴も発見。ムクゲの葉っぱが黄色くなってきた。全体的に落葉が目立つように。雪が降ってかなり冷え込むらしいので、挿し木たちを日当たりのいい2階の部屋へ移動する。簡易ビニールハウスに入ってもらおう。去年の冬越しのことを思い出す。うん。去年よりみんな大きく育ってる。今年も冬乗り切ろうな。しんしんと雪が降る。

**2022年1月** 気温2～5℃、湿度67～70% (平均)  
 雪が積もって地面がべちゃべちゃな日以外は庭の開墾を続ける。とにかく雪が降る。朝起きて真っ白な世界。吸い込まれてしまいそう。挿し木を置いている部屋の温度は1℃を下回ることはない状態を何とかキープ。他の部屋は氷点下。毎朝のように水道が凍結。アジサイの新芽はゆっくり成長。つやつやつるつるの生まれたて。去年の冬のアジサイはすべての葉っぱを落としてた。今年は大きな葉っぱも残ってる。成長が安定してきたってこと?バラもすっかり元気。復活。おめでとう。嬉しい。ヤエクチナシと思っていたのはヒメクチナシだった。ヒメクチナシも去年の今頃より確実に成長してる。枝も伸びたし葉っぱも増えた。みんな、ほんまにありがとう。巨人さん、見てますか?

**2022年2月** 気温1～4℃、湿度60～65% (平均)  
 崇仁小学校のプールがあったあたりの出入り口が開いて、奥のほうに木が見えた。え?撤去されたと思ってたけどメタセコイヤ残ってるん?あ、いや、違うわ。もっと背が高かったし。もっと幹が太かった。ある校長先生が植えたと言ったメタセコイヤ。何としても挿し木にして残したかったけど、うまく根付かなくて1本も残せなかった。ごめんなさい。必死に挿し木の管理をしていた2年前のことを思い出す。アトリエで管理しているマサキ。うわー!!!新しい葉っぱ出てきた!沈黙を破ってやっと新しい葉っぱ!おめでとう。おはよう。はじめまして。ここ滋賀県やねん。崇仁じゃないねん。だんだん暖かくなってくるし、これから元気に大きくなってな。ほんまにありがとう。すくすく第一号やったけど、うまく根付かなかったオオイヌタデと思っていたの、ほんとの名前はホソバアキノゲシだった。ずっと何か違うぞと思っていた、ある方を介して植物に詳しい人に聞いてもらって判明。はあ、長い間名前間違えてごめんな。「タデちゃん」ってあだ名もつけてもらってたけど、ほんとの名前は違ったんやな。ほんまにごめんな。でもあなたは今でも「タデちゃん」やわ。ずっと挿し木を見守ってくれてる「タデちゃん」。挿し木たち、晴れの日には必ずカバーをとって直接光を当てるようにしている。なあ、みんな。もうわかってると思うけど、もうすぐ春やで。





## 崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト） 2020～2021 活動報告展

崇仁すくすくセンターをスタートさせた 2020 年度の活動と、  
2021 年度に行った様々な取り組みをご紹介します報告展を開催いたしました。

会期：2022年2月14日(月)～2月20日(日) 10:00～17:00 ※2月15日(火) 休館  
 会場：京都市下京いきいき市民活動センター（うるおい館）1階ロビー（〒600-8207 京都市下京区上之町 38 番地）  
 主催：崇仁すくすくセンター実行委員会  
 共催：崇仁デイサービスうるおい  
 協力：一般社団法人 HAPS 京都市下京いきいき市民活動センター 京都府立植物園 工房かじたに  
 助成：公益財団法人 福武財団  
 下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」令和3年度採択事業  
 設営：小西由悟(たま製作所)  
 設営補助：菊池季  
 会場撮影：内堀義之

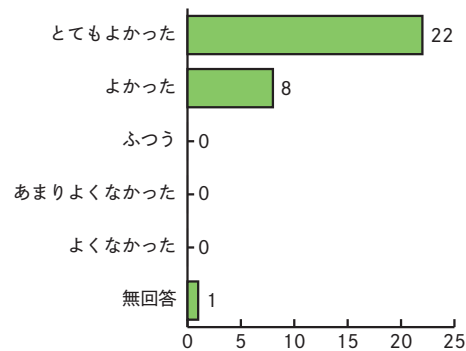


# 崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

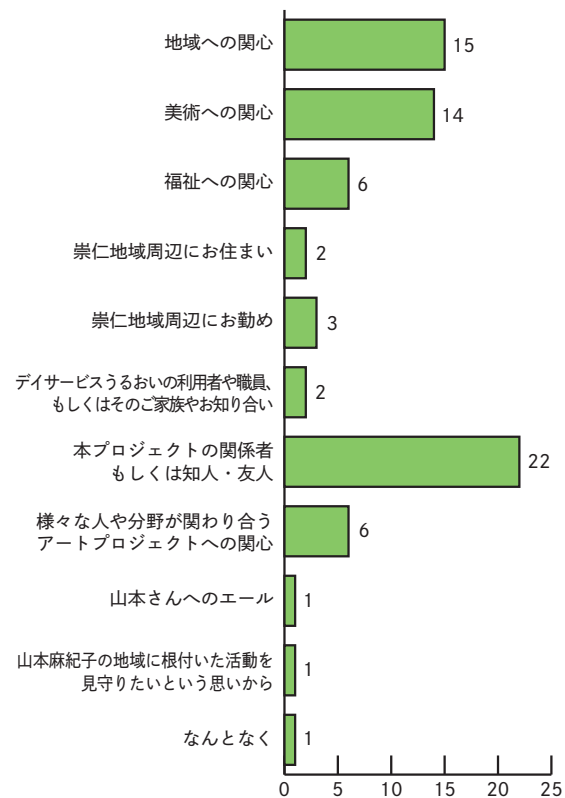
## 2020～2021年度活動報告展 アンケート集計結果

2022年2月14日(月)・16日(水)～20日(日)の6日間 来場者 約130名

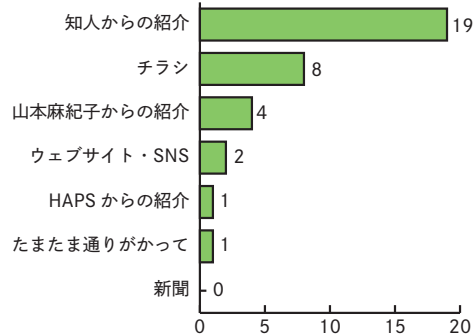
●報告展はいかがでしたか？



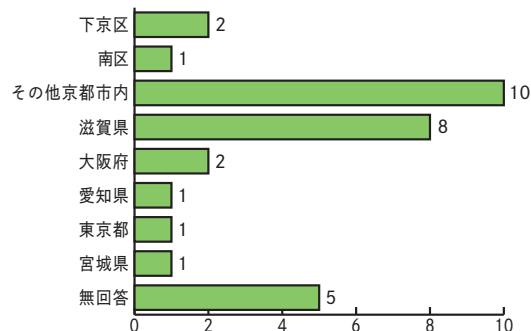
●ご来場いただきました動機を教えてください。(複数回答可)



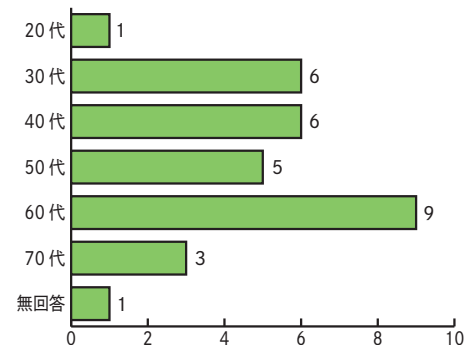
●この報告展をどのようにお知りになりましたか？(複数回答可)



●ご来場者のお住まい



●ご来場者の年齢



## 展覧会への感想

自生していた植物から採取した色で描かれた草花は、本当に生きているように伝わってきました！利用者の皆さんで守り育てられている挿し木が、大きくなりますように……。(30代 其他都道府県在住)

感動した。命のつながり。地域の記憶。(60代 滋賀県在住)

七条大橋の近くにある旅館によく泊まっていて、よくここを訪れてゆっくりしながら駅へ向かってました。もっと早く知ればと思うくらいに活動の行く末にのめり込みました。もう帰る時間が迫り、記録の冊子も5月10日で止めなければならないのには残念な気持ちでした。私はいま、趣味で写真を撮っているので、何か役に立てたらなあとチョット思い始めました。(30代 愛知県在住)

この地域が変わっていく中で、開発して見た目は大きく変わる。でもそこに暮らした人の記憶とか思い出がなくなるわけではない。記憶を何らかの形に表現されている活動と作品に何かわかりませんが刺激を受けました。お年寄りの方の小学校の思い出もじっくり読みました。作品に溶け込んで形を変えて残っていくのかなと感じました。(40代 京都市内在住)

ゆっくり時間をかけて取り組むプロジェクトかと思います。結果を出すことより地域によりそって継続して下さい。(50代 大阪府在住)

2030年までかかるということの意味がわかる展示でした。色々考えさせられることの多い内容でした。その場にあった樹木を未来へ託すということそのものだけでなく、そこにあった記憶を掘り起こし、記録し、残すということ。経済活動からこぼれる小さな声を拾うということ、そのアクションとそれが未来につながるインパクトについて考えさせられました。(50代)

地域の歴史や思いを木に託して伝えていかれる取り組みは次の世代を担う子どもたちにとって大きなプレゼントになると思います。(50代 南区在住)

あんなに生き生きとどっしりと育っていた木々が、また命をつなげられることになって本当にいいことを思いついたなあと思った。木々のお世話、管理は本当に大変だったり、難しいことがあるだろうと思いますが、スライドを見ていて、小さな小さな挿し木から芽が出て花をさかせるのを見て感動しました。大きく育ってゆきますように。(40代 京都市内在住)

樹木医さんも成長楽しみにされています！……私もです。(60代 京都市在住)

数々の人の手がかかっているプロジェクトのこれからが楽しみ。こういう風に風景が残されていくのはとても味わい深く、ていねいで取りこぼされたものがすくわれる気がします。(30代 京都市内在住)

この発想そのものが思いつかないので「すげー」と思いました。何だか「つながり」が続く感じ  
ですよね。(40代 仙台市在住)

地域の取り組みというか、お年寄りの方々の感覚にとっても自然にプロジェクトが溶け込んでい  
て良いように思えた。「美術」ということを良い意味で意識させない。「生きる」とか全体的な  
事柄について思いをはせられる。(20代 京都市内在住)

見捨てがちな小さな自然と真摯に向き合っている様子に新たな感慨を感じました。(60代  
大津市在住)

素敵なプロジェクト拝見致しました。デジタル化が進む社会で、人との交流が益々大事にな  
ります。人間らしく生きる社会を作るうえでも重要な取り組みだと思います。(70代 滋賀県  
在住)

素晴らしい活動の報告をありがとうございました。2030年までおかけます!!楽しみです。  
ひとときわ、「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなしに感動しました。「大  
きくなってー大きくってー」。挿し木を通し、利用者さん一人一人の心の宇宙に触れる。すば  
らしく貴い時間のように思いました。(30代 京都市内在住)

個人リサーチの紹介がすばらしかったです。とくに染シリーズの絵はとても素敵でした。観に  
来させて頂くことでしか感じられない展示が今このご時世と時代に不可欠だと思えました。  
(40代 大阪府在住)

麻紀子さんのアトリエに行った作業している感を味わう。長い月日のかかった。これから育つ  
年月の1ページを見れた。長い長い日々の1カケラをみれた。きっとこれは誰かの足で、素敵  
な巨人の足なのだ。いい人の足だ。(40代)

崇仁デイサービスの方々と活動がおもしろく、特に「思い出すこと」「・・・」は心に残りもつ  
と知りたいと思った。(60代 大津市在住)

赤玉土から陶器を作成したり、身近な物で媒染液を作り、染められた布を見て、自分自身の  
生活を振り返りました。山本さんによって息を吹き返した物達。見せていただいてありがと  
うございました。(60代 滋賀県在住)

崇仁南部にこんなに多くの植物があることや、挿し木の数の多さに驚きました。また挿し木  
の成功例は少なく難しさが伝わってきます。山本麻紀子さんの根気強い取り組みに感謝で  
す。うるおいの利用者のみなさんの活動はとても楽しそうです。植物で取った色付けを終え  
たちぎり絵の完成は楽しみです。(60代 下京区在住)

山本さんのお名前を初めて知りました。豊かで温かいお人柄だと感じました。更に崇仁地区  
の皆さんのふるさとへの思いをつないでいこうとされる本取り組みに感銘を受けました。(60  
代 京都市内在住)

芸術に関して様々な表現があるが、ここまで地域を掘り下げ、人に寄り添っておられることに  
感動しました。(50代 京都市内在住)

ちぎり絵や草木染などの作品がすてき!!地域の歴史が地域の人達の手で作品として姿を変  
えて残されていくプロセスがよくわかりました。継続的な報告展を楽しみにしています。(50  
代 東京在住)

植物の色はとても優しいものですね。植物の力と皆さんの優しい気持ちが成長して未来につ  
ながり続けていくことを願っています。(40代 京都市在住)

住み心地の良い場所づくりとして期待します。(70代 滋賀県在住)

活動が多岐に渡っていること、地道な作業からデイサービス利用者の手で作り出される作品  
や引き出された言葉まであたたかく素敵だと思いました。地域ぐるみ、子どもからお年寄りまで  
まきこんだプロジェクトなのですね。この先も楽しみにしています。(60代)

この地域が今後、アートとの関連でどのように変化していくか興味がわきました。(70代 滋  
賀県在住)

この展示が出来上がるまでの過程に思いをはせて気が遠くなるような思いになりました。ま  
だまだ続いていくのですね・・・。本当にすごいことです。これからもこのプロジェクトの展  
開を見続けていきたいです。(30代 滋賀県在住)

地域の中の命をつなぎ残してくださいありがとうございます。これからも崇仁地域で住民も参  
加できる制作活動をお願い申し上げます。(下京区在住)

※プライバシー保護の観点から、一部の固有名詞を省略して掲載しております。

# 崇仁すくすくセンター 実行委員会メンバー紹介

- 委員長 山本麻紀子(アーティスト)
- 副委員長 小笠原邦人(総合福祉施設東九条のぞみの園 施設長)
- 委員 安部良(安部良アトリエ級建築士事務所)
- 委員 安部知(安部良アトリエ級建築士事務所)
- 監事 四元秀和(京都市文化芸術企画課計画推進担当課長)
- 事務局 安部知(安部良アトリエ級建築士事務所)
- 宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)
- 大森晃子(崇仁デイサービスうおい 管理者)



毎日挿し木に触れながら、崇仁という場、樹木とともに暮らしてこられたたくさんの方々のことを想い続けてきました。また一方で、樹木からみた時代の移り変わりについても想いを馳せました。挿し木になったからこそまれる出会いや出来事がたくさんあると思います。それらを、これまで樹木とともに暮らしてこられた方の思いや願いに重ね合わせることができる、本当に特別な時間を挿し木たちに与えてもらっているように感じます。2021年度になり、実行委員会という心強い仲間ができました。今後も実行委員会の体制をより一層整え、このプロジェクトに共感して下さったり応援していただける方とのめぐりあいを心から楽しみにしています。

山本麻紀子(アーティスト)



崇仁すくすくセンターは、地域を大切にしてきた方々の繋がりを生み出す『居場所』となり、皆様がそれぞれの持ち味を発揮する『出番』の場となれば、大変、嬉しく思います。このプロジェクトでは、慣れ親しんだ樹木の挿し木が、これからの崇仁の街にも馴染むように、また、高齢の方々と若い世代を紡ぐ取り組みになるよう、最善を尽くしてまいります。

小笠原邦人(総合福祉施設東九条のぞみの園 施設長)



地域とは何なのか? 故郷はいつどの時点で完成して消えてゆくのか? 記憶の器として建築は必要なのか? など、人と場所にまつわる様々な概念や思考の輪郭を広げてゆくこと、そして未来のコミュニティの場面を考えることが、一見すると建築とは何の関係もなさそうなこのプロジェクトに関わり続けたいと思う、私の動機と悦びになっています。

安部良(安部良アトリエ級建築士事務所)



ことし、挿し木から芽吹いたちいさな樹木を、実際にデイサービスうおいの方々に見守っていただけるようになり、このプロジェクトが一步步、地域の方々と共に歩み始めたことを実感しました。ちいさな命とちいさな営みが積み重なって、大きく育っていく未来を想像すると、いまでもワクワクします。すくすくセンターは、場所や記憶についての対話と創作の場でもあり、不安ばかりの今の世の中にあって、確かな温もりを伝えることのできる、稀有なプロジェクトだと感じます。ここに携わる機会をいただけたことを、本当に嬉しく思います。ありがとうございます。

安部知(安部良アトリエ級建築士事務所)



2年前始まった「挿し木」のプロジェクト。企画を伺ったとき、胸に何か温かいものが生まれたことを覚えています。芸大移転工事が進む今、この小さな取組は2030年を目指す「崇仁すくすくセンター」として生長しつつあります。地域の方や施設の皆さん、崇仁を思う沢山の気持ちが栄養になっているのだと思います。私の胸の何かからも芽が出てきました。「崇仁すくすくセンター」と一緒に育てていきたいです。

四元秀和(京都市文化芸術企画課計画推進担当課長)



崇仁地域で仕事をするようになり、14年が経過しました。この間、銭湯や食堂など皆さまにとっての生活の一部が失われてしまったり、そして何よりも大きかったのは、住みかが形を変えることになったことだと思います。高齢の方にとって、この大きな変化が心身に与える影響は計り知れません。地域が大きな変貌を遂げる中、変わらないものが未来に残ることに大きな期待をしております。

宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)



崇仁デイサービスうおいの利用者様や職員を代表して、地域の活動に参加できることを大変うれしく思います。大学移転に伴って地域が変化していく中コロナ禍により地域行事が縮小され、このまま工事の様子を傍観するしかないのかと思っていました。しかしこのプロジェクトに参加させて頂くことによって、変化を植物や住んでいる地域の方や思い等と共に感じられることができます。繋がっていく何かを感じながら、地域の方と共に歩んでいけたらよいと思います。

大森晃子(崇仁デイサービスうおい 管理者)

## 崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

### 2021年度

主 催：崇仁すくすくセンター実行委員会

共 催：崇仁デイサービスうるおい

協 力：一般社団法人HAPS 京都市下京いきいき市民活動センター  
京都府立植物園

助 成：公益財団法人 福武財団

下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」  
令和3年度採択事業

京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

公益財団法人 福武財団



---

## 崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

### 2021年度活動記録集

発 行：崇仁すくすくセンター実行委員会

デザイン：カズマキカク

印 刷：株式会社プリントパック レトロ印刷JAM

発行日：2022年3月

著作権法で定められた範囲を除き、無断での複製、複写、転載を禁じます。

---

崇仁すくすくセンターウェブサイト（現在準備中）

[sukusukucentre.org](http://sukusukucentre.org)

ご意見・ご感想などは以下メールアドレスまでご連絡ください。

[contact@sukusukucentre.org](mailto:contact@sukusukucentre.org)